



毘沙門天

学校の北側，北目公民館の東側に、「毘沙門天王」と書かれた鳥居とお堂があります。私は毎朝の巡回の途中，必ず立ち寄っています。学校のすぐ近くにあるということで，郡山小学校の守り神のように感じ，毎朝鳥居をくぐり，お堂の前で手を合わせています。

毘沙門天は，仏教を守るという強いイメージから，戦いや勝利の神様として，鎧を身につけた武将の姿で表現されるようになり，日本の仏像で見られる毘沙門天の姿は武装しているものがほとんどで，武神として知られています。しかし，私は毎朝，子供たちや職員の武運を祈っている訳ではありません。起源としては古代ヒンドゥー教の金運と福德の神が日本に渡ったもので，財福の神として信仰されていたことや，疫病を祓い無病息災を願う神として毘沙門天を祀っているお寺や神社もあるそうで，私は毎朝，次のように祈っています。

「今日も，子供たち，教職員，保護者，地域の皆様が，皆，安全に仲良く過ごせますように。」

さて，先日そのことを，総合学習のゲストティーチャーとしてお越しいただいていた安齋敬幸さん（前 PTA 会長・現郡山中学校 PTA 会長）にお話ししたところ，安齋さんからこの北目の毘沙門天について，たいへん興味深いお話を伺いました。

以下，安齋さんから伺った話と，その後，やはりゲストティーチャーとしてお世話になっている沼田敏さんからも伺った話を基に，簡単にご紹介します。

郡山にある毘沙門天王のお堂は，北目城跡にあったものを，50年ほど前に道路工事に伴って移設したものだそうです。そのお堂は現在のホテル・ルートイン付近にあったもので，北目城の敷地は，そこから太白区東郡山2丁目まで及んでいました。

そのとき既に，お堂の中に毘沙門天像はありませんでした。毘沙門天像は元々は北目城にあったのですが，毘沙門天像も江戸時代当時のお堂も，他の場所に移されており，そこにあった旧鎮座地の印としての新しいお堂だけを，現在の場所に移設したのです。

毘沙門天像は，400年ほど前に伊達政宗によって北目城から荒町に移されており，それ以来現在に至るまで，金光山満福寺に祀られています。その時，建物は本尊とは別に四郎丸字落合に移築され，落合観音堂として現存しています。

この毘沙門天像は実はもともと岩手県の平泉にあったそうです。この像は，奥州藤原氏の第3代当主・藤原秀衡が，安元元年（1175～1176）に仏師・運慶に作らせたと伝えられていて，藤原氏の守本尊として，磐井郡平泉（現岩手県平泉）に祀られていました。その後文明年間（1469～1487）に，栗野氏によって，毘沙門天は北目城に移されます。栗野氏は北目城を拠点し，仙台市南東部一帯に勢力を張った一族です。経緯は不明ですが，毘沙門天は現在の岩手平泉から岩手一関や仙台松森を経て北目城に移ったそうです。

現在荒町の金光山満福寺に祀られているこの毘沙門天像は秘仏であり，12年に1度，寅年にしか開帳しません。（今年が開帳の年です。）

※裏面へ続く

..... 切り取り線

学校への御意見・御要望・校長に知らせたいこと など

2022年1月28日（ ）年（ ）組 児童氏名

こんな伝説が伝わっています。

それは北目城の城主が、栗野氏だったころ。伊達政宗は幾度となく北目城を攻めるものの、なかなか落とせず苦戦を強いられていました。敗戦の度に家臣らは、「城に蜘蛛の巣が垣根みたいに巻きついていて寄りつけない」「黒い雲が空から降りてきて城をすっぽり隠してしまった」などと話しており、この不思議な話を聞いた政宗は、密偵を送り栗野氏の周辺を探らせました。すると、郡山の毘沙門天を厚く信仰していることが分かります。これを知った政宗は、「ならば、わしもその毘沙門天に願をかけよう。もし栗野に勝てたなら、我が城下に立派な毘沙門堂を建立しよう」と勝利を祈願します。

願いが叶い、北目城はついに落城します。(※伊達政宗が北目城を落としたという記録は残っておらず、あくまでも伝説です。) 喜んだ政宗は、さっそく毘沙門天像を担いで城に帰ることにしました。ところが途中、急に一抹の不安が胸をよぎります。「毘沙門天のご利益は大したものだが、誰かがこのわしを倒せと祈願したら、それも叶ってしまうだろう。持ち帰るのは危険だ！」なんと政宗は、近くの堀に毘沙門天像を投げ捨ててしまったのです。その後、堀からこれを拾った人たちの手でお堂が建てられました。それが今の荒町にある毘沙門堂になったといえます。

伝説とはいささか異なりますが、史実によると、戦国時代末期にあたる慶長5年(1600)。伊達政宗は上杉軍を討つべく白石城へ出陣します。その際、既に正宗による知行(領地)替えにより栗野氏が去った後の北目城に祀られていた毘沙門天像に勝利を祈願したそうです。政宗は「願いが叶ったら堂宇を建立する」と約束しました。願いは叶い、政宗は上杉軍を退け、白石城の奪還に成功します。戦後、政宗は毘沙門天の堂宇にふさわしい場所を探し、寛永3年(1626)仙台北城下の荒町に仮堂が建てられ、政宗は毘沙門天像を北目(郡山)から移します。そして政宗の遺言により、寛永20年(1643)仙台藩2代藩主の伊達忠宗によって現在の毘沙門堂が建てられました。

毘沙門天像は荒町に移っても、地元にとって大切なこの**毘沙門天の旧鎮座堂**で、私はこれからも毎朝鳥居をくぐり手を合わせます。

「今日も、子供たち、教職員、保護者、地域の皆様が、皆、安全に仲良く過ごせますように。」